

拠点名称：資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステナブル陸上養殖のグローバル拠点

代表機関	琉球大学	プロジェクトリーダー	竹村 明洋 琉球大学 理学部 教授 (副理事・副学長)
参画機関	(大学等) 沖縄工業高等専門学校、水産大学校、東京海洋大学、長浜バイオ大学、福井大学、はこだて未来大学、大阪工業大学 (企業等) オリオンビール株式会社、株式会社メイキット、株式会社マチス教育システム、共和化工株式会社、沖縄セルラー電話株式会社、国際協力機構 (JICA)、沖縄県栽培漁業センター、中城村		

プロジェクトの概要

本プロジェクトが目指す10～20年後の未来のありたい社会像は『世代を超えて、すべての人が、環境負荷ゼロで、食資源の確保と、経済的な自立ができる社会』である。

水産の視点から見える我が国や世界の食糧生産に関わる将来課題(人口増に伴う食糧調達困難、エネルギー供給の持続可能性が不十分、食品ロス・食品廃棄の弊害が深刻化、担い手不足による漁業経営の困難)を、農業と水産業の垣根をとりさった新産業で解決することをめざし、若者が主役となって食を育て提供する資源循環型の共生社会を実現する。そのための拠点ビジョンとして「私たちは農業と水産業の垣根をとりさり、世界の若者が主役として食を育て提供する循環社会を実現する」を設定した。3つのターゲット(「食」の効率的な循環をうみだす基盤の確立、「エネルギー」の循環をつくる基盤技術開発、「情報」の高度利用を可能とする技術開発)のもとで、「無駄を省いた海洋生物の生産技術と陸上養殖システムの開発」、「物質循環型農水一体養殖技術の開発」、「再生可能エネルギー100%による電源供給」、「ICTを活用したスマート陸上養殖技術の開発」に関わる研究開発を行い、これらを徹底的なスマート化で統合運用し、農水一体型の新産業(沖縄モデル)としてパッケージ化し、国内外に展開する。

